

イエスは、はるかにすぐれた希望 ヘブル人への手紙 6:13-20

お手元の聖書のヘブル人への手紙 6:13-20 をお開きください。生きること、成長すること、あるいは前に進むことの原因となる希望が、世界中の誰もが求めるものです。そうした希望を持っている者たちは、それが当たり前すぎて特に意識することはありません。家族であれ友だちであれ仕事であれ、毎朝起きる理由があり、普通に人生を歩み続ける理由が何かしらあります。ですが、他の多くの人にとって、希望とは常に心にある問題です。ベッドから起き上がることすら嫌でたまりません。仕事の中に大切だ、必要だと思えることが何も見出せません。周りに人がたくさんいても孤独に感じます。それは、自分と他人との間に常に壁があるように感じてしまうからです。自死を選ぶ人もいれば、人生の意味を探し続けつつ、ただ存在し続ける人もいます。あるいは、気を紛らせ、人生に意味があると感じたいために、現実ではなかったとしても自分の人生に意味があると感じられる体験をするためにお金を費やす人もいます。それを希望と呼ぶか否かに関わらず、誰もが何らかの形で希望を探し求めますが、人生のあらゆる浮き沈みを乗り越えるための真で永遠の希望は一つの場所にしかありません。今日のヘブルの箇所では、イエス・キリストにあって見つけることのできる真のより優れた希望について語っています。そこには、私たちの神は偽ることのないお方なので、イエスがより優れた希望を当ててくださると記されています。

では、まずヘブル人への手紙 6:13-20 を読みましょう。「神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、 14 「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたを大いに増やす」と言われました。 15 このようにして、アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです。 16 確かに、人間は自分より大いなるものにかけて誓います。そして、誓いはすべての論争を終わらせる保証となります。 17 そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思ひ、誓いをもって保証されました。 18 それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。 19 私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。 20 イエスは、私たちのために先駆けとしてそこに入り、メルキゼデクの例に倣って、とこしえに大祭司となられたのです。」この箇所の中心にあるのは希望です。鍵となるのは 18 節です。そこには「それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。」とあります。この神が偽ることはないのでイエス・キリストがより優れた希望を与えてくださるとした一節が、この箇所全体を要約しています。なぜ神の約束を信頼することができるのか、そのことがキリストに在る希望にどのようにつながるのかがこの箇所で説明されています。神の約束が私たちに希望を与えてくれる一つ目の理由は、神の約束が神ご自身の性質に基づいているからです。この箇所全体を通して、神の約束が神の性質と結び付けられているのが見て取れます。まず 13 節を見てください。「神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、 14 「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたを大いに増やす」と言われました。」このことについての議論が始まった 4 章に戻ると、私たちの希望はイエスが私たちの大祭司であるという事実に基づいているという点が続けて論じられていることが分かります。そして、その希望は確かな何かに基づいているときにのみ確実となります。この場合、それは、イエスが永遠の大祭司であるという神の約束に基づいています。この神の約束への焦点こそが、私たちの大祭司について語っているこの箇所と、警告と確約が記されたその前の箇所を結びつけます。6 章の 11-12 節は神の約束に焦点を当てて終わっています。ヘブル人への手紙 6:11-12 「私たちが切望するのは、あなたがた一人ひとりが同じ熱心さを示して、最後まで私たちの希望について十分な確信を持ち続け、 12 その結果、怠け者とならずに、信仰と忍耐によって約束のものを受け継ぐ人たちに倣う者となることです。」つまり、神の約束は私たちの希望と明確につながっているのです。私たちの神は約束を守ら

れる神であるということを知る必要があります。神の約束は信頼できるということを示すために、著者はイスラエルの歴史の中のアブラハムに私たちの目を向けさせます。そして、まず約束の真実性を保証する神ご自身の性質に焦点を当てます。法廷などで宣誓するとき、私たちはこれから語る証言が完全に真実であることを誓います。16-17節はまさにそのことを語っています。**「16 確かに、人間は自分より大いなるものにかけて誓います。そして、誓いはすべての論争を終わらせる保証となります。17 そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思ひ、誓いをもって保証されました。」**真実を語ることを示すために、私たちは自分より偉大なものにかけて誓います。ですから、私がアメリカ軍に勤務していた時、再契約や昇進のたびに宣誓する際、「神よ、どうか助けたまえ。」という言葉で終わりました。世界の多くの場所で、宣誓をする際には、聖書や他の聖典、アメリカであればアメリカ憲法に手を置きます。もちろん、神はそのようなすべての物よりもはるかに偉大なお方ですが、実際に人々は自分よりも権威のあるとみなされるものにかけて誓うことで自らの誠実さを示すのです。では神はどうでしょうか。神がご自分の言葉の真実性を保証したいと願われるとき、どうされるでしょうか。神はご自分にかけて誓われます。なぜなら、この世に神よりも偉大な存在はないからです。

ですが、神がご自分以外に偉大なものにかけて誓うことができないという事実を通して、ヘブルの著者はより重要な点を指摘しています。もし神よりも偉大な存在がおられないなら、神は事実この世で最も偉大な存在であり、この世と私たちの人生のすべてを支配しておられることとなります。このことを主権といいます。これが神のあらゆるご性質の土台となっています。神が主権者であられるというとき、私はジョン・パイパー氏と同意見です。それは、神が実現しようと意図されるいかなる働きも、出来事も、目的も妨げるものは何もないという意味です。このことをヨブ記にあるヨブの言葉に最も明らかに見ることができます。ヨブ記 42:2 「2 あなたには、すべてのことができること、どのような計画も不可能ではないことを、私は知りました。」これが聖書に示されている神の主権の定義です。もし神がご自分にかけて誓われるとき、ご自分が望まれることを完全に成し遂げる力にかけて誓われるのだということです。ですから、もし私たちがこの宇宙の主権者なる神に近づくことを可能にし、それゆえに希望を見つけることができるように、完全な大祭司イエス・キリストを通して、その永遠の道を備えると神が約束してくださるのなら、私たちは絶対的な確信をもってそれが実現すると知ることができます。ですが、神のご性質に基づく約束の確かさは、主権だけによるものではありません。神が主権者であられることと、神が気まぐれに御心を変えないことは別の問題です。ある日は神に近づくことができても、次の日には近づけないかもしれません。ですが、神の主権的なご計画は変わりません。それが17節に「ご自分の計画が変わらない」と記されている点です。神の約束が確かなのは、約束を守る主権的な力を神がもっておられるからだけでなく、約束が変わらないからでもあるのです。これこそがイエス・キリストにおいて与えられた約束を保証する、神ご自身の性質です。神であられるイエスご自身の性質と十字架で成し遂げられた御業が、この約束と私たちの希望の土台であるという真実を忘れてはなりません。ですから19節は**「19 私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。」**と言っているのです。イエスこそが、その死のときに真っ二つに裂かれた幕の向こう側、神殿の至聖所に入られる方です。至聖所とは、地上における神の臨在の場所とされており、大祭司が年に一度だけ入ることが許されてきました。神殿の他の場所から至聖所を隔てていた厚い幕は、イエスが死なれたときにイエスが宇宙的な規模で成し遂げられたことを示すために上から下まで裂けました。何を成し遂げられたのかというと、イエス・キリストは人々の大祭司となってくださり、ご自分の血の犠牲を通して、人々が神の臨在に入るための道を永遠に開いてくださったのです。イエスは自分の罪を悔い改め、イエスの犠牲だけが罪の代価を払うことができると信じ、イエスを通して神のもとに来るすべての人に救いを与えてくださいます。これが私たちの希望です。どんな状況にあろうとも私たちの人生における錨なのです。

私たちは希望を錨として見る必要があります。それは、永遠の希望であるものの、この世の嵐に直面する時、その永遠の約束が空しく思えることがあるからです。このことは、イエス・キリストにある約束の最終的な成就を待つ間、私たちに忍耐が必要であることを示しています。再びヘブル人への手紙の著者は、神の約束の成就を待ったアブラハムの模範に私たちの目を向けさせます。もう一度 15 節を見てください。「15 このようにして、アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです。」創世記を学んでからしばらく経ちましたので、著者がここで何を考えているのかを理解するために、アブラハムの生涯を少し振り返る必要があるかも知れません。アブラハムは普通に生活していましたが、75 歳のとき神から約束を与えられました。創世記 12:2 「2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。」大いなる国民となるためには、アブラハムには自分の家系を継ぐ者、つまり息子が必要でした。85 歳になったとき、その息子の約束は創世記 15:4 で更に具体的にされます。「4 すると見よ、主のことばが彼に臨んだ。「その者があなたの跡を継いでではない。ただ、あなた自身から生まれ出てくる者が、あなたの跡を継がなければならない。」不幸にも、彼の妻サライには子どもができなかったため、この約束は不可能に思えました。子どもが生まれぬまま時は流れ、創世記 16 章では、約束を待つ中で、信頼と忍耐が揺らぐ場面もありました。創世記 16:1-3 には「アブラムの妻サライは、アブラムに子を産んでいなかった。彼女にはエジプト人の女奴隷がいて、その名をハガルといった。2 サライはアブラムに言った。「ご覧ください。主は私が子を産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。おそらく、彼女によって、私は子を得られるでしょう。」アブラムはサライの言うことを聞き入れた。3 アブラムの妻サライは、アブラムがカナンのに住んでから十年後に、彼女の女奴隷であるエジプト人ハガルを連れて来て、夫アブラムに妻として与えた。」とあります。ですがついに 25 年待った後、100 歳になった時にアブラハムの忍耐は報われました。創世記 21:1-3 にはこうあります。「主は約束したとおりに、サラを顧みられた。主は告げたとおりに、サラのために行われた。2 サラは身ごもり、神がアブラハムに告げられたその時期に、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。3 アブラハムは、自分に生まれた子、サラが自分に産んだ子をイサクと名づけた。」アブラハムは神の約束を受け取るために、生涯の大きな部分を待つことに費やしました。その約束が人間的にはもはや実現不可能と思われるところまで待ったのです。完璧に待てたわけではありませんでしたが、ヘブル人への手紙からはアブラハムが忍耐強く待ったことが明らかです。

その忍耐強さが、神の約束に対して私たちが抱いている希望を特徴であるべきです。この箇所についてここまで見てきたように、希望は永遠で変わることはない主権者なる神から与えられた約束に基づいています。そして、その希望が最終的に成就するのを見るためには、人生の浮き沈みの中で神のときを忍耐して待つ必要があります。ですがそのためには、神の約束によって信徒に与えられている希望が、具体的にどのようなものであるのかを理解する必要があります。その希望の説明は 18 節から始まります。「18 それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。」変わることはない神からくる二つの不変なものとは、神の御言葉とその御言葉による誓いです。一つ目の神の御言葉というのは、先に示された誓いを立てるということが神の語られることを意味することによります。これはまた、ヘブル 4:12 で著者が神の言葉は「生きていて、力があり」と言ったことにもつながります。二つ目は、そこに明確に記されているように神が約束を保証するためにたてられた誓いです。そして 19 節では、私たちが神の約束の内にある避け所と希望をどこに見出すのかが明らかにされています。「19 私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。20 イエスは、私たちのために先駆けとしてそこに入り、メルキゼデクの例に倣って、とこしえに大祭司となられたのです。」私たちの希望は、イエス・キリストが罪のための完全な犠牲として十字架で死なれたという事実にあります。先ほど見ましたように、大祭司としてのイエスの働きによって神殿の幕が取り去られ、私たち皆が神に近づくことができるようになったという事実私たちに私たちの希望はあります。イエスとその犠牲によ

り、私たちは自分の力によってではなく、ヘブル 4:16 が「あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受ける」ことを可能にすると示しているキリストの血によって、直接神の御前に入ることができます。その意味について今日は詳しく触れませんが、これはイエスが「メルキゼデクの例に倣って」罪のない永遠の祭司であり王であるからこそ可能なのです。イエスは私たちが神のもとへ行くための扉を開いてくださいました。私たちの前に「先駆けとして」入ってくださったのです。イエスが死なれる前にも希望はありました。ですが、神との和解や罪からの回復の希望がどのように実現するのかは明確ではありませんでした。ですが、イエスが来られた後、イエス・キリストへの信仰こそが私たちが積むから救い出すのだと、確信を持って言うことができます。キリストとの関係は、イエスに従って神の御前にでることを可能とするのです。

それがどのように希望をもたらすのでしょうか。それは私たちにとって、「**確かな、たましいの錨**」となるのです。人生はいつも穏やかで静かな水面に浮かぶ船のようなものではありません。美しい穏やかな川に浮かぶカヌーやパドルボートのような時ばかりでもありません。私たちの人生は、激しい波に揺さぶられることもしばしばです。死や病気、人間関係の問題、失業、その他の危機によって、神の真実を見失い、神から目をそらしてしまうとき、希望さえ見失いそうになることがあります。ですが、そのような時こそ私たちの大祭司であるイエス・キリストは船の錨のように、波に打たれて右に左に傾きそうになる船が動かぬように守ってくださいます。錨について大切なことがあります。私たちにはそれが働いている様子を目で見ることはできません。錨は海底や湖の底に食い込んで、船が岩にぶつかったり更に沖へ流されたりしないようしっかりとした支えとなります。どれだけ強い風が吹きつけたとしても、どれだけ波が船体を打ったとしても、錨が船をその場所にとどめてくれると信じるのです。私は 2 年の乗船経験がありますが、航空母艦ほどの大きな船でさえも、嵐の中では海の揺れや波の衝撃を感じるものです。同じように、皆さんも人生における嵐の中では悲しみや苦しみを感ぜられることでしょう。ですが、あなたの錨としてイエスが共におられるなら、風や海を支配しておられる方を見失うことはありません。生きるも死ぬも、また穏やかな海にあっても荒れ狂う並の中にあっても、神がいつも共にいてくださることを知ることができます。そして、大祭司であるイエスと共に、神の御前に進み、必要な時に助けとあわれみを求めることができます。そのような時、私たちが大祭司であるイエスを通して神のもとへ逃れるなら、18 節が約束しているように、私たちは前に置かれている希望を捕らえるための避け所と力強い励ましを見出すことができるのです。祈りましょう。

Jesus offers a better hope Hebrews 6:13-20

Please open your Bibles this morning to Hebrews 6:13-20. Hope, a reason to live and to thrive and move forward is really what everyone in this world is looking for. For those who have it, we don't really think about it a lot, because it is something that is taken for granted. We have a reason to get up in the morning, whether its family or friends or work, there is something in our life that naturally just gives us a reason to keep going. But for many others, the idea of hope is something that is constantly on their minds. They dread getting out of bed. They have nothing that they find important or necessary in their job. They are lonely, even with people all around them, because they always feel like there are walls between them and others. Some turn to suicide or just existing and going through life always looking for something to make life meaningful. Others are even willing to pay for experiences that make them feel something that may not be real, but provide them some distraction and seeming meaning in life. While everyone is searching in some way for hope, whether they call it that or not, there is only one place to find real and lasting hope that survives all the ups and downs of life. Our passage today in Hebrews is talking about the real and better hope we have in Jesus Christ. It tells us that **Jesus offers a better hope because our God does not lie.**

Let's begin by reading this passage, Hebrews 6:13-20. **¹³ For when God made a promise to Abraham, since he had no one greater by whom to swear, he swore by himself, ¹⁴ saying, "Surely I will bless you and multiply you." ¹⁵ And thus Abraham,^[b] having patiently waited, obtained the promise. ¹⁶ For people swear by something greater than themselves, and in all their disputes an oath is final for confirmation. ¹⁷ So when God desired to show more convincingly to the heirs of the promise the unchangeable character of his purpose, he guaranteed it with an oath, ¹⁸ so that by two unchangeable things, in which it is impossible for God to lie, we who have fled for refuge might have strong encouragement to hold fast to the hope set before us. ¹⁹ We have this as a sure and steadfast anchor of the soul, a hope that enters into the inner place behind the curtain, ²⁰ where Jesus has gone as a forerunner on our behalf, having become a high priest forever after the order of Melchizedek.** This passage is focused on hope. The key verse is verse 18, "so that by two unchangeable things, in which it is impossible for God to lie, we who have fled for refuge might have strong encouragement to hold fast to the hope set before us." That one verse wraps up the summary of this passage that Jesus offers a better hope because our God does not lie. What we see in this passage is an explanation of why we can trust God's promise and how that leads to our hope we have in Christ. **The first reason that God's promise gives us hope is that God's promise is based in the very nature of God himself.** We see God's promise being tied to God's character and nature throughout this passage. Look first back at verse 13. **¹³ For when God made a promise to Abraham, since he had no one greater by whom to swear, he swore by himself, ¹⁴ saying, "Surely I will bless you and multiply you."** Going back to chapter 4 where this current discussion really began we see a theme continue to develop that our hope is rooted in the fact that Jesus is our High Priest. And that hope is only certain if it is based on something certain. In this case it is based on the promise of God, that Jesus is our eternal high priest. This focus on God's promise in this passage is what connects the rest of this passage about our great High Priest back to the previous verses of warning and assurance. Verses 11-12 of chapter 6 ended by focusing on God's promise. **Hebrews 6:11-12 says, ¹¹ And we desire each one of you to show the same earnestness to have the full assurance of hope until the end, ¹² so that you may not be sluggish, but imitators of those who through faith and patience inherit**

the promises. So, God's promise is explicitly tied to our hope, so we have to know that our God is a promise keeping God. To show that we can trust God's promise, the writer goes back in Israel's history to Abraham to show that God can be trusted. And he starts by focusing on the nature of God himself that guarantees the truth of his promise. When you take an oath or swear to something, such as in a court case, you are swearing that what you are about to say and testify about is the absolute truth. That's what verses 16-17 are talking about, **¹⁶For people swear by something greater than themselves, and in all their disputes an oath is final for confirmation. ¹⁷So when God desired to show more convincingly to the heirs of the promise the unchangeable character of his purpose, he guaranteed it with an oath,** The way you signify that you are telling the truth is to swear on or to something greater. So, when I served in the US military, every time I reenlisted or was promoted to the next rank as an officer, I took an oath that ended with the words, "so help me God." In many places in the world, you place your hand on a Bible or some other supposed holy book or even the US Constitution at times in the US. Of course, God is higher than any of those other items people swear on, but the fact is that people swear on something considered an authority above them to declare their truthfulness. But what about God? What does he do when he wants to assure us of the truthfulness of what he says? He swears by himself because there is no higher being in the universe to swear to.

But there is a larger point the writer is making for us by pointing to the fact that there is no greater thing God himself can swear to. If there is no one greater, then God is in fact the highest being in the universe and in fact controls everything about this universe and our lives. We call this Sovereignty. It forms the basis of all of God's other attributes. When we say that God is sovereign, I agree with John Piper that we mean that nothing can stop any act or event or purpose that God intends to happen or intends to bring about. We see this most clearly in Job's words to God in [Job 42:2](#), **"I know that you can do all things, and that no purpose of yours can be thwarted.** That is the Bible's definition of God's sovereignty. If God swears by himself, he is swearing by his absolute ability to do anything he desires to do. So, if God promises that he will provide an eternal access to himself by a perfect High Priest Jesus Christ that will enable us to approach the sovereign God of the universe and find hope because of that access to God, we know with absolute certainty that he will do it! But that certainty of his promise based on his character goes beyond even sovereignty. It is one thing for God to be sovereign, but what if as part of that, he changed his mind all the time. One day we could have access to him and the next we would not. But God's sovereign purpose does not change. That's what verse 17 tells us that God has an **"unchangeable character of his purpose..."** Not only is God's promise certain because of His sovereign power to back up that promise, but also because that promise is unchangeable. This is the nature of God himself that backs up his promise he made in Jesus Christ. And that fact should not be lost, that it is the nature of Jesus himself as God and what he accomplished on the cross that forms the basis of this promise and of our hope. So verse 19 says, **¹⁹We have this as a sure and steadfast anchor of the soul, a hope that enters into the inner place behind the curtain...** It is Jesus who enters into the inner place of the temple, the holy of holies behind the curtain that was torn in two at his death. Just as a brief reminder, this was considered the place of God's presence on earth that could only be entered once a year by the high priest. That heavy curtain that separated the holy of holies from the rest of the temple was torn from top to bottom at Jesus's death signifying what Jesus had done at the cosmic level. And what he did was permanently

open the door for humans to enter God's presence through the blood sacrifice of Jesus Christ, who offers to be their High Priest. Jesus offers salvation to all who come to God through him in repentance from their sin and believing that only by his sacrifice can our sin be paid for. This gives us hope! It is an anchor for our lives no matter what we go through.

And we need to look at hope as an anchor, because while it is an eternal hope, that promise of eternity will sometimes seem empty when we face storms here on earth. **This speaks to the need for patience as we await the ultimate fulfillment of the promise we have in Jesus Christ.** Once again this is where the writer wants us to focus on the example of Abraham as he waited for the fulfillment of the promise he received from God. Look again at verse 15. **¹⁵ And thus Abraham, having patiently waited, obtained the promise.** It's been a long time since we looked at Genesis, so we probably need a review of his life to think about what the writer has in mind here. Abraham is just living his life when at 75 years old, God gives him a promise. **Genesis 12:2 says, ² And I will make of you a great nation, and I will bless you and make your name great, so that you will be a blessing.** To be a great nation Abraham needs an heir, a son, to carry on the family line. At 85 years old, that promise of a son is made even more clear in **Genesis 15:4, And behold, the word of the LORD came to him: "This man shall not be your heir; your very own son[b] shall be your heir."** Unfortunately, his wife Sarai had not been able to have a child, so this promise seems impossible. Time continues to go by with no children, and there is even a lapse in trust and a lack of patience while waiting on that promise in Genesis 16. **Genesis 16:1-3 says, Now Sarai, Abram's wife, had borne him no children. She had a female Egyptian servant whose name was Hagar. ² And Sarai said to Abram, "Behold now, the Lord has prevented me from bearing children. Go in to my servant; it may be that I shall obtain children by her." And Abram listened to the voice of Sarai.** But finally after waiting 25 years, at 100 years of age, Abraham's patience was rewarded. **Genesis 21:1-3 says, ²¹ Now the Lord was gracious to Sarah as he had said, and the Lord did for Sarah what he had promised. ² Sarah became pregnant and bore a son to Abraham in his old age, at the very time God had promised him. ³ Abraham gave the name Isaac to the son Sarah bore him.** Abraham waited a large part of his lifetime in order to receive the promise from God. He waited until there was no physical way that promise could come true. He didn't wait perfectly, but the book of Hebrews is clear that what characterized that wait was that he **patiently waited.** That patient waiting should characterize the hope we have in the promise of God.

So far in this passage, we have seen that hope is based on a promise we have received from an eternal, unchanging, sovereign God. And that we need to patiently await God's timing through the ups and downs of life to see that hope come to its ultimate fulfillment. But now **we need to understand what exactly the hope is that belongs to believers because of the promise of God.** The unfolding of that hope begins in verse 18. **¹⁸ so that by two unchangeable things, in which it is impossible for God to lie, we who have fled for refuge might have strong encouragement to hold fast to the hope set before us.** Those two things that are unchangeable because they come from an unchangeable God are His Word and the oath he made by his Word. One, the Word of God, is implied from the earlier text that to make an oath means that God speaks. This is also tying back to what the writer has already said previously about the Word of God in **Hebrews 4:12** being **"living and active."** And the second is explicit in the text, the oath that God makes to back up his promise. Then verse 19 makes clear where we run for

refuge and hope in the promise of God. ¹⁹ We have this as a sure and steadfast anchor of the soul, a hope that enters into the inner place behind the curtain, ²⁰ where Jesus has gone as a forerunner on our behalf, having become a high priest forever after the order of Melchizedek. Our hope lies in the fact that Jesus Christ died on the cross as the perfect sacrifice for sin. It lies in the fact that as we pointed out earlier, his role as high priest removed the veil in the temple and allowed all of us access to God. Through Jesus and his sacrifice, we now enter directly into God's presence not on our own merits but on the blood of Christ where we receive mercy and find grace to help in time of need as Hebrews 4:16 already told us. We won't go over the significance again today, but this is possible because Jesus was a sinless, eternal, priest and king "after the order of Melchizedek." Jesus opened the door for us to come to God. He went before us as our "forerunner." Before he died, there was hope, but it was not fully clear how that hope for reconciliation with God and restoration from sin would happen. But after Jesus, we know with certainty that our faith in Jesus Christ is what delivers us from our sin. Our relationship with him allows us to follow him into the very presence of God.

And how does that bring hope? It gives us a sure and steadfast anchor of the soul. Life will not always be like sitting on a boat in peaceful and calm waters. It will not always be like a gentle canoe or paddle board on a beautiful calm river. Many times our lives will be rocked by waves crashing against us, death, disease, relationship problems, job loss, so many other crises in our lives can cause us to lose sight of God's faithfulness and even begin to lose hope when we take our eyes off of him. But it is at those times that Jesus Christ our High Priest becomes like an anchor on a ship that keeps that ship from moving even when the waves are crashing against it and pulling it to one side or another. And here's the thing about an anchor. You can't see it doing its job. It digs into the bottom of the ocean or the lake and provides a solid support for the boat against the force of the water trying to make it crash into rocks or get pulled further out to sea. But you trust that that anchor will hold, that no matter how much wind pushes against the boat or how many waves crash against its hull, the anchor will keep it in place. After spending two years on a ship, I can attest to the fact that even on a ship the size of an aircraft carrier you can feel the movement of the ocean and the pounding of waves in a storm. And in your life, you will feel the sorrow and suffering of the storms you go through, but with Jesus as your anchor you will never lose sight of the one who controls the wind and sea. And whether in life or in death in calm seas or crashing waves, we can know that God is always there for us, and with Jesus as our High Priest we can confidently come into his presence and cry out for help and grace in our time of need. And when we do that, verse 18 promises us that when we flee or run to God through Jesus, our High Priest, we find a place of refuge and strong encouragement so that we can hold fast to the hope set before us. Let's pray.